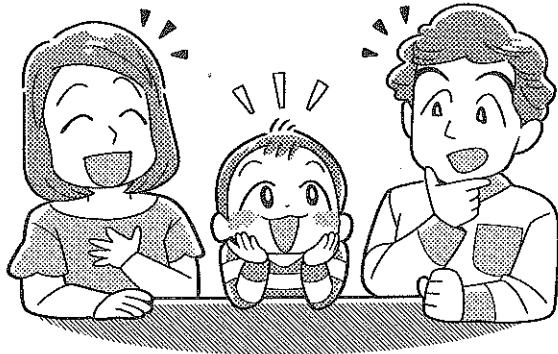


ほけんニュース

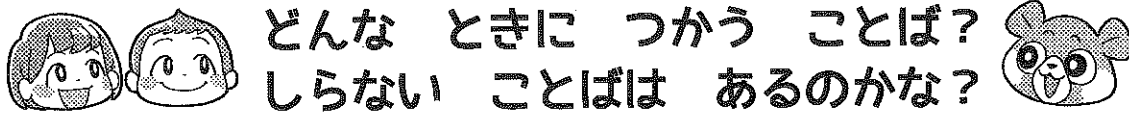
幼少期から育みたい言葉の使い方

幼少期は言葉で自分の気持ちを表現したり、人と言葉を伝え合ったりするなど、さまざまな体験を通して、言葉を豊かにする時期です。いろいろな言葉で、たくさん話しかけてください。

人とのかかわりの中で身につく言葉



子どもはおとなの言葉をまねしたり、遊びの中に取り込んだりして、言葉を使うようになります。言葉のやりとりを重ねることで、子どもたちは自分の気持ちを伝えようとします。そして、相手が言葉で答えることを通して、言葉の使い方を身につけていきます。子どもの言葉に耳を傾けて、言葉を返すことが大切です。



おはよう

あさの あいさつ

ありがとう

おれいの ことば

やめて

いやな ことを された とき

いただきます

たべる まえの あいさつ

だいじょうぶ?

おともだちが ころんだ とき

おやすみなさい

ねる まえの あいさつ

ごめんね

あやまる とき

いっしょに あそぼう

おともだちと あそびたい とき

「いいよ」も「いや」も子どもの大切な気持ち

幼児期の子どもが、おもちゃを貸してといわれて「いや」と断ることがあります。子どもは、いつも遊んでいるおもちゃを自分のものと感じるので、これは当たり前のことです。無理に「いいよっていおうね」などというと、子どもは気持ちを認めてもらえなかったと感じることがあります。

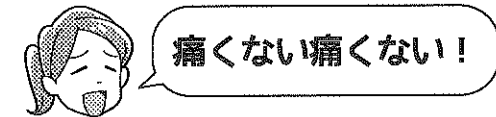
まずは「まだ使っているんだね」などと受け入れる言葉をかけ、その後「仲よく遊ぶにはどうしたらいい?」と話してみましょう。

子どもは気持ちを受け入れてもらう経験を通じて、自分と他者の気持ちの違いに気づき、少しずつ歩み寄れるようになります。

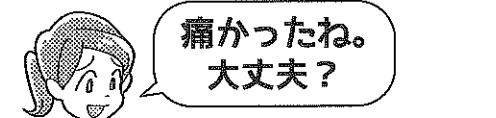


子どもに寄り添い、気持ちを動かす言葉かけ

転んで痛いと言っている時

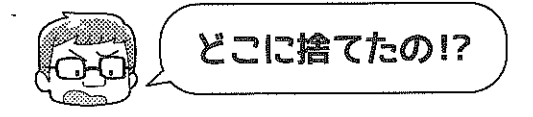


受け入れる言葉に

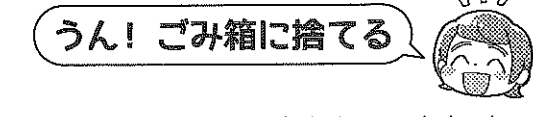


痛かったのに否定されたと思う子もいます。受け入れる言葉をかけてみてください。

床にごみをぼい捨てした時



具体的に指示する言葉に



疑問形で叱ると伝わらないことも。してほしいことを指示してみてください。

監修 白梅学園大学 子ども学部 教授 師岡章